

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491500029	事業の開始年月日	平成20年9月1日
		指定年月日	平成20年9月1日
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ湯河原グループホーム		
所在地	(〒259-0311) 神奈川県足柄下郡湯河原町福浦220-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成27年2月9日	評価結果 市町村受理日	平成27年9月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>個別のケアを重視し、また外出レクなどにも力を入れています。 ご家族・医療機関・地域社会とのつながりを重視し、アットホームで開かれたホームを目指し日々努力しています。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年2月18日	評価機関 評価決定日	平成27年8月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR東海道線真鶴駅より徒歩10分ほどの高台にあり、自然豊かで閑静な住宅街に位置している。相模湾と初島、伊豆半島の眺望がすばらしく、眼下には湯河原、熱海の市街が見える。軽量鉄骨造りの2階建てで、全面バリアフリーでエレベーターも設置されている。平成24年7月1日に「ツクイ湯河原サンフラワー」から「ツクイ湯河原グループホーム」に改称した。オーナーはペンションを営み、地域の区長（自治会長）を務めており、地域との連携はとれている。管理者は昨年赴任している。</p> <p>【理念と5カ条の方針に基づいた支援の実践】 運営の基本理念である「暖かい家庭的なあなたの暮らしを守ります」を基本として、利用者が穏やかに暮らせるように、5カ条の方針を設定している。利用者を人生の先輩として敬うように「お客様」と呼んで、「あいさつは心をこめたおもてなし」という法人の方針を守っている。利用者の要望を「引き継ぎノート」に記入して、職員間で情報を共有し、できる限り個人の要望に対応している。利用者の身体機能の維持・向上のために、朝のラジオ体操、歩行訓練、リハビリ体操、口腔体操、合唱、音読などの多彩なプログラムを日課として取り入れている。献立は利用者の好みを考えて決め、食事は職員の手づくりで、野菜を豊富にとり入れている。利用者は自宅で使用していた馴染みの食器を継続して使用している。火災防止上の配慮から、オール家電仕様、スプリンクラ、火災報知機システムなどの設備が充実している。</p> <p>【地域との連携強化】 福浦区会に加入して、地域の夏まつりなどの行事に参加している。地域の老人クラブの体操、お茶会、カラオケに招かれている。運営推進会議には区長・介護課職員や地域包括支援センター職員の出席があり、地域や行政とも密接に連携をとっている。湯河原町のシルバー展には利用者が出品している。事業所の夏祭り、三石や福浦漁港の観光などには家族の参加を呼び掛けて、連携に努めている。事業所玄関の外に飲料水の自動販売機が設置されており、災害時には無料で地域の方に提供されるようになっている。開設7年目を迎えて、さらに地域との連携を強化しようと努めている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ツクイ湯河原グループホーム
ユニット名	あじさい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は試みていますが離職率が高く、なかなか理念の統一が図られるまで時間がかかっていることが現状です。	事業所の開設時に、管理者と職員で事業所独自の基本理念「暖かい家庭的なあなたの暮らしを守ります」を作成した。玄関・リビング・事務所に掲示している。理念の実践に向けた5カ条の方針については会議の中で確認して、職員間で共有している。職員は業務の都合を利用者に押しつけていないか、常に意識して、利用者の主体性を尊重している。管理者は新しい理念を職員と一緒に作成することを検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所様などとは地域の中でなじみの存在になっていると思います。しかしながら住宅街の中という訳でもなく、湯河原町全体を考えるとより交流の場は広がると思います。	福浦区会に加入している。地域の夏祭りや防災訓練、清掃に参加している。老人会での体操やお茶会、カラオケに出かけている。毎日の散歩で近所の方から花やミカンを頂くこともある。民謡・大正琴・日本舞踊・オカリナなどのボランティアが活発で、敬老の日の行事の内容を地域の「湯河原新聞」に掲載されたこともある。地域の情報は回覧板や運営推進会議で収集している。事業所の夏祭りには地域の方の参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域における認知症介護に貢献できることを呼びかけています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に定期的に行っています。ご家族や地域の方々よりご意見を頂き、運営へと反映しています。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。出席者は福浦区長（自治会長）、老人会会長、湯河原町介護課職員及び地域包括支援センター職員、利用者・家族、管理者・職員である。会議では事業所の運営報告、行事の案内のほか、利用者家族から意見や要望などを聞いている。外部評価の報告もしている。防災訓練で「夜間を想定した訓練を実施したらどうか」との意見があり検討している。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者様は運営推進会議に参加して下さっています。 また必要に応じてすぐに連絡がとれるよう顔の見える連携を築けています。</p>	<p>湯河原町介護課が窓口である。運営相談や空き室、困難事例の情報共有など連携をとっている。湯河原町主催の「介護保険事業者連絡会」に参加して、他のグループホーム事業者と情報交換をしている。民生委員からは、町の行事などの情報を定期的にもらっている。行政から研修の案内があり参加している。</p>	
---	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などを通じて身体拘束ゼロへの取組みが行われています。	身体拘束をしないことを運営規定、契約書に明記し、玄関にも掲示している。拘束廃止委員会も設置して常に確認している。法人主催の研修会に参加し、マニュアルに基づいて内部研修も実施して、理解を深めている。特に管理者は言葉遣いなど、日常の支援の中で気づいたことを、その都度注意している。玄関、フロアは開放しており、職員の見守りを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などを通じて虐待の防止への取組みが行われ、全職員が理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるたびに職員への説明を行い、対応が必要と思われる入居者様には随時説明を行い支援へと繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解頂くまで時間をかけてご説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などの機会によりご意見を頂いております。また出席できない方からは書面にてご意見を伝えられるよう工夫しています。	法人は毎年、利用者家族のアンケートを実施している。結果については、事業所の職員会議で討議して、運営に生かしている。運営推進会議や家族の来訪時に意見や要望を聞いている。運営推進会議に出られない方には、意見をファックスで頂いている。来訪の少ない家族には電話で連絡をとっている。利用者の意見や要望は、日々の支援の中で把握している。散歩時や入浴時、雑談しているときに運動をさせて欲しいとの声があり、毎日の散歩や行事への参加を積極的にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティングなどを通じ職員の意見や提案を聞き、業務や運営の改善へ繋げています。	職員全員での毎月1回の職員会議、フロアごとの毎月のユニット会議、毎朝の引き継ぎ時などに、職員の意見や要望を聞いている。管理者は、雇用契約更新時に個別に相談し、意見や要望を聞いている。グループホームのエリア総括責任者が職員から意見を聞く機会を設けている。職員は日常の支援の中で意見や要望を管理者や計画作成者に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月例ミーティングや個別の面談を行い各自のモチベーション向上へ努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設け、積極的に参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内のGH部会などに職員が参加できるような体制を整えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望を傾聴し十分な説明を行い、信頼関係構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と常にコミュニケーションを密にとることで様々な不安の解消に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談等でご家族様・ご本人の要望や状況を時間をかけて聞き取ることで他のサービスを含めた支援へと結び付けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニットを擬似家族としてとらえ、生活を共にすることで相互の信頼関係を築いていきたいと思ひます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には職員や他の入居者様とともに一つの家族に加わって頂くことで共に支えていく存在として実感していただけるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方々と自由に面会できるよう環境を整えています。	家族や友人が毎週訪ねて来る方がいる。昔の職場の同僚も訪ねて来る。その際には、リビングや居室で対応し、お茶の接待もしている。手紙のあて名書きや電話の取り次ぎもしている。家族と一緒にお彼岸にお墓参りに行ったり、正月に家に帰る方もいる。管理者は、利用者のこれまでの関係継続のため、個別の要望にも応えるように努めている。個別に外食や本屋に行ったり、夫婦での外出を支援している。初詣にも職員2名体制で対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や輪を尊重し、共に支えあえる関係を築けるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、その後のフォローをご家族が必要な限りしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の発する言葉やしぐさ、行動からご本人がどのような生活を望んでいるのか常に模索しております。	アセスメントで意見や要望を把握している。特に意向の把握が困難な方は、表情や態度から把握している。家族から要望や意見を聞くこともある。散歩や入浴、雑談している時などに利用者から意見や要望を聞いている。日頃の暮らしぶりは「ひまわり通信」で家族に伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	十分な聞き取りを継続することにより、今現在の暮らしへと反映しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察によりご本人の心身の状態を常に把握するように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通じて様々な意見を取り入れた上で介護計画を作成しています。	管理者や計画作成担当者が利用者の自宅を訪問し、利用者・家族から意見や要望を聞いている。計画作成担当者は入居判定後に、暫定介護計画を作成し、1ヶ月様子を見て、カンファレンスを実施して、利用者・家族、医師、看護師、職員などの意見をまとめて正式な介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し同意を得ている。見直しは原則3ヶ月後に実施し、状況が変化した時にはその都度見直している。個人別に、介護計画、支援経過記録、日常記録などをファイルし、職員で情報を共有している。介護計画と日々の支援の連動を見やすくするため、新たに「介護記録」の様式を作成し、簡単に記入できるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録よりご本人の様子などを職員間で共有し計画書に反映しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務フローに囚われないケアを目指し事業所として取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分とは言えないが、地域資源を常に活用する方法や機会を模索しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を聞いたうえで医療の支援を行っています。	利用者2名が従来のかかりつけ医を受診しており、家族が対応している。家族が対応できないときには、職員が付き添うこともある。他の利用者は協力医をかかりつけ医とし、内科が月2回、皮膚科が月1回の往診がある。歯科は月1回で、希望者が受診している。家族が対応した時の受診情報や、協力医の受診情報は「受診記録」に記入して、職員間で共有している。薬に関しては近くのドラッグストアが、居宅療養管理指導として個別に1日分ずつに分けて、届けてくれる。職員は間違いのないよう複数で確認している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師もミーティングやカンファレンスに参加していただけるよう取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーなどを提出することで連携を図っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には勿論、定期的に重度化した場合の方針についてご家族とコミュニケーションを図っています。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、利用開始時に説明し同意を得ている。3名の看取りを経験している。医師、看護師との連携はできている。訪問看護師は毎週1回の訪問があり、24時間対応である。医師の指示により家族と話し合い、家族の意見を聞いて対応をしている。法人や事業所内部の研修は実施されており、職員は自信を持って対応することができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時など消防の協力の下、研修を重ねています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議等で災害時の協力等について話し合っています。	消火避難訓練は年2回実施している。内1回は消防署の立ち合いがある。訓練の内容は、通報、避難誘導と消火器の使い方などで夜間を想定した訓練や、地域の方の参加はない。地域の避難訓練には管理者が参加している。備蓄は非常持ち出し袋、AED機器、ガスコンロなどの防災用品、飲料水などの備えがある。食材は常に3日分の備えはある。管理者は地域の防災拠点としての役割を果たしたいと考えている。	「地域との協力体制」については継続協議されることを期待します。夜間を想定した訓練や地域の方の避難訓練への参加を、運営推進会議などを通じて、積極的に要請することが望まれます。事業所が地域の防災拠点としての役割を果たすことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に研修することで職員への教育を継続しています。	職員は利用者を人生の先輩として敬うように常に意識している。利用者を「お客様」と呼んで、「あいさつは心をこめたおもてなし」という法人の方針を守っている。法人の研修が年2～3回あり、内部研修も毎月実施されている。利用者との契約時に個人情報保護の説明をし、同意書を受け取っている。職員は契約時に誓約書を提出している。個人情報の記入されている書類は事務所のキャビネットに鍵をかけて保管している。玄関には個人情報保護方針が掲示されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のその日にあった生活を尊重し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を第一にしています。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けも含めた食事の時間を大切にしています。	食事は職員による手づくりである。食材は週2回職員が近くの魚屋や肉屋、スーパーなどに買いに行っている。献立は利用者の声を聞いて、職員がその日の材料を見て立てている。できる利用者が皮むきなどの下ごしらえをしており、盛り付けや洗い物、食器ふきなどもしている。毎月ファミリーレストランに出かけ外食を楽しんでいる。誕生会などは寿司の出前をとったり、各ユニット合同での食事会を行っている。正月にはおせち料理も楽しんでいる。体調に応じてきざみやとろみ食にも対応している。利用者は自宅で使っていた、馴染みの食器を使用して、できるだけ家庭的な雰囲気を継続している。職員は同席し、同じものを食べて介助している。	
----	----	--	----------------------------	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々記録をとることにより継続的なケアへと反映しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々記録をとることにより継続的なケアへと反映しています。	自立の方が8名で、他の人はリハビリパンツやオムツを使用している。利用者ごとの排泄パターンを把握して、声かけしてトイレに誘導し、自立支援が行われている。入院していた方が退院後、オムツからリハビリパンツに改善したケースもある。トイレは各フロア3箇所、うち1箇所は車椅子対応である。トイレから浴室へは直接移動できないが、リビングとの間に間仕切りがあるので、失敗した時なども他の方の視線を気にせず移動できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取や運動する機会を設けており、それが予防へと繋がっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意思・意向を尊重しています。	入浴は週2～3回、午前中が基本であるが、利用者の希望には対応している。希望があれば同性介助をしている。入浴したくない方には、声かけの仕方を工夫したり、時間をずらすなどの工夫をしている。菖蒲湯やゆず湯、入浴剤などを使用して楽しんでいる。体調に応じて清拭やシャワー浴、足浴をする方もいる。浴室や脱衣所はエアコンがついており、湯は個別に入れ替えている。入浴は1対1で介助して、一人30分程度でコミュニケーションの場にもなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思・意向を尊重しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師さんと連携を図ることでより職員の薬に対する理解を深めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションなど入居者様の意向を聞きながら実施しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	そのような外出支援を事業所のウリにしていきたいと思えます。少しずつですが実施しています。	天気の良い日には車椅子の方と一緒に散歩に出かけている。近所の方からミカンや花をもらうこともある。週3回朝に近くのパン屋に買い物に行っている方もいる。地域の老人会の体操、お茶会、カラオケに参加している。毎月ドライブに出掛け、幕山公園に梅見や花見、湯河原の川沿いの花見に行く事もある。貴船神社に初もうでに行っている。地域の夏祭りや、三石、福浦漁港などに、家族も呼び掛け一緒に出掛けている。湯河原町のシルバー展に利用者の作品を出品している。夫婦での外食や外出、初もうでなど、利用者の個別の要望にも職員2名で対応している。今後、個別支援に力を入れる意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的には行っておりません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて工夫しております。	リビングは、オーナーの拘りで、照明は間接照明で、日めくりのカレンダーや手づくりの作品、生花などが飾られて、季節感を演出している。壁面には利用者と職員による習字や折り紙、貼り絵などが飾られている。リビングには小上がりの畳部屋があり、玄関や階段の踊り場は広く、ところどころに椅子とテーブルが置かれて、利用者は自由にくつろぐことができる。リビングのテーブルの座席の配置は利用者の相性を考慮して、半年ごとに変更している。空気清浄機や加湿器が備えられており、毎朝換気には十分注意し、清掃は職員とできる利用者が実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の意思・意向を尊重しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意思・意向を尊重しています。	エアコン、照明、カーテン、スライドハンガー、クローゼットが備え付けられている。利用者は、仏壇や整理ダンス、テレビや写真、ラジカセ、人形など馴染みの物を持ち込んで、自宅での生活と同じような環境を整えている。窓は大きく、南西向きの部屋からは、相模湾や初島、伊豆半島が一望できる。清掃は職員やできる利用者が実施している。居室の入口には職員と利用者の共同作品の飾りが付けられている。	

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントによりできる機能をフルに活用できるような支援を心がけています。		
----	---	---------------------------------------	--	--

事業所名	ツクイ湯河原グループホーム
ユニット名	あやめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は試みしていますが離職率が高く、なかなか理念の統一が図られるまで時間がかかっていることが現状です。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所様などとは地域の中でのなじみの存在になっていると思います。しかしながら住宅街の中という訳でもなく、湯河原町全体を考えるとより交流の場は広がると思います。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域における認知症介護に貢献できることを呼びかけています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に定期的に行っています。ご家族や地域の方々よりご意見を頂き、運営へと反映しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者様は運営推進会議に参加して下さっています。また必要に応じてすぐに連絡がとれるよう顔の見える連携を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などを通じて身体拘束ゼロへの取組みが行われています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などを通じて虐待の防止への取組みが行われ、全職員が理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるたびに職員への説明を行い、対応が必要と思われる入居者様には随時説明を行い支援へと繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解頂くまで時間をかけてご説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などの機会によりご意見を頂いております。また出席できない方からは書面にてご意見を伝えられるよう工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティングなどを通じ職員の意見や提案を聞き、業務や運営の改善へ繋げています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月例ミーティングや個別の面談を行い各自のモチベーション向上へ努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設け、積極的に参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内のGH部会などに職員が参加できるような体制を整えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望を傾聴し十分な説明を行い、信頼関係構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と常にコミュニケーションを密にとることで様々な不安の解消に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談等でご家族様・ご本人の要望や状況を時間をかけて聞き取ることで他のサービスを含めた支援へと結び付けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニットを擬似家族としてとらえ、生活を共にすることで相互の信頼関係を築いていきたいと思えます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には職員や他の入居者様とともに一つの家族に加わって頂くことで共に支えていく存在として実感していただけるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方々と自由に面会できるよう環境を整えています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や輪を尊重し、共に支えあえる関係を築けるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、その後のフォローをご家族が必要な限りしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の発する言葉やしぐさ、行動からご本人がどのような生活を望んでいるのか常に模索しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	十分な聞き取りを継続することにより、今現在の暮らしへと反映しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察によりご本人の心身の状態を常に把握するよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通じて様々な意見を取り入れた上で介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録よりご本人の様子などを職員間で共有し計画書に反映しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務フローに囚われないケアを目指し事業所として取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分とは言えないが、地域資源を常に活用する方法や機会を模索しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を聞いたうえで医療の支援を行っています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師もミーティングやカンファレンスに参加していただけるよう取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーなどを提出することで連携を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には勿論、定期的に重度化した場合の方針についてご家族とコミュニケーションを図っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時など消防の協力の下、研修を重ねています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議等で災害時の協力等について話し合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に研修することで職員への教育を継続しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	その人のその日にあった生活を尊重し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を第一にしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けも含めた食事の時間を大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々記録をとることにより継続的なケアへと反映しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々記録をとることにより継続的なケアへと反映しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取や運動する機会を設けており、それが予防へと繋がっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意思・意向を尊重しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思・意向を尊重しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師さんと連携を図ることでより職員の薬に対する理解を深めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションなど入居者様の意向を聞きながら実施しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	そのような外出支援を事業所のウリにしていきたいと思えます。少しずつですが実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的には行っておりません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて工夫しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の意思・意向を尊重しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意思・意向を尊重しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントによりできる機能をフルに活用できるような支援を心がけています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ツクイ湯河原グループホーム

作成日 2015年9月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策 地域の防災避難訓練には参加しているが、ホームの防災訓練に地域の方々の参加が無い。	まずは隣近所の方々が参加して頂けるよう準備する。	9月末に防災訓練予定。予定をポスターにし、隣近所に配布してみる。	9月末まで。
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。